

斑点米カメムシ類の防除対策

斑点米カメムシ類（写真1）は籾を吸汁し斑点米を発生させます。わずかな斑点米の発生でも玄米の品質低下（等級落ち）を引き起こすため、水稻の重要害虫に位置づけられています。



クモヘリカメムシ

ホソハリカメムシ

アカヒゲホソミドリ

アカスジカスミカメ

カスミカメ

写真1 斑点米カメムシ類

大型のカメムシ類（クモヘリカメムシやホソハリカメムシ）に吸汁されると、玄米に比較的大きな斑点（写真2、3）が発生し、屑米になる場合もあります。

小型のカメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）は口器が弱く籾を刺すことができませんが、籾の隙間から吸汁されると側面に斑点が発生します（写真4）。また、籾の頂部の加害により尻黒米（写真5）が発生し、まれに玄米の肥大のアンバランスで果皮が裂開したくさび型の傷により、カメムシ黒点米（写真6）（イネシンガレセンチュウによる黒点米に似る）となることもあります。



写真2 斑点米



写真3 斑点米（側面）



写真4 黒蝕米



写真5 尻黒米



写真6 カメムシ黒点米

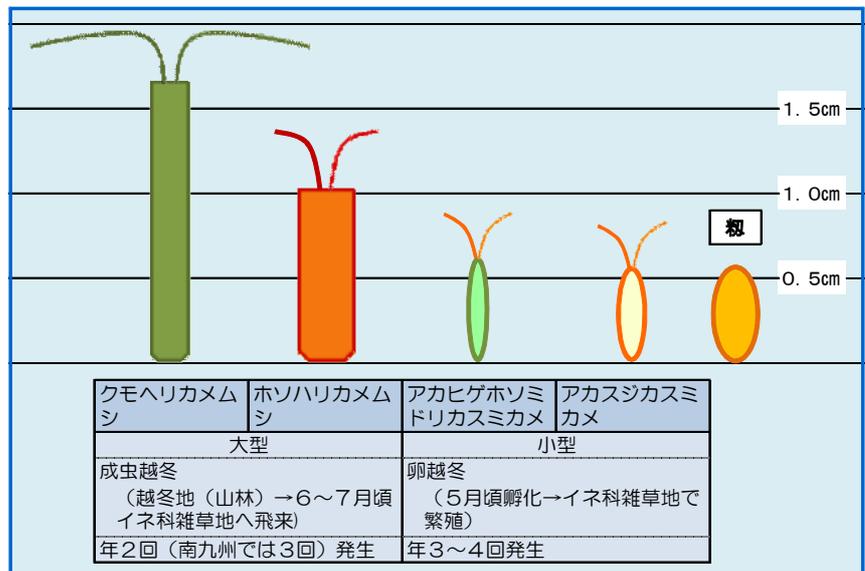


図 斑点米カメムシ類の形態と生態

表 栃木県における主要な斑点米カメムシ類の水田への侵入時期と加害

	水田への誘引源	水田内への成虫侵入時期	加害時期	加害部位※1	主な被害傾向
クモヘリカメムシ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・周りど時期がずれて（早・遅）出穂した水稻の穂	・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稻出穂期以降	登熟期	籾の縫合部	屑米 斑点米
ホソハリカメムシ				籾全体	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・水稻の穂	・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稻出穂期以降※2	登熟初期	籾の頂部	尻黒米 カメムシ黒点米
アカスジカスミカメ			登熟後期	籾の縫合部がゆるんだ隙間 籾割部	

※1 アカスジカスミカメは主に侵入した成虫が加害。他種は成虫・幼虫（成虫侵入の10日～2週間後頃から発生）が加害。

※2 出穂前の6月頃にも成虫侵入は見られる。

防除対策

斑点米カメムシ類はイネ科植物の種子を好みます。水田内や水田周辺のイネ科雑草等は斑点米カメムシ類の誘引源、発生源、本田内へ侵入するための中継点になりますので、カメムシ類の生息しにくい環境を整え、斑点米の発生を防ぎましょう。



写真7 イヌホタルイの小穂

[1] 水田内の除草

○水稻出穂前に結実するヒエの穂、イヌホタルイの小穂（写真7）は、斑点米カメムシ類の誘引源・発生源となりますので結実前に除草しましょう。

[2] 水田周辺の除草

○農道や畦畔のイネ科雑草、水田周辺雑草地は斑点米カメムシ類の発生源になるとともに、水田内へ侵入するための中継点になります。イネ科雑草が結実する前に除草を行いましょう。

①水稻出穂2～3週間前＋②水稻出穂期頃（草刈りしたイネ科雑草が出穂する前）の除草

①出穂2～3週間前と②出穂期頃の両方で除草ができれば、水田周辺のイネ科雑草の穂を長期間抑えることにより、カメムシ類の水田への侵入をさらに低減することができます。

注意1：①出穂2～3週間前の除草だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来するので、必ず①②両方で除草を行いましょう。

注意2：②出穂期頃のための除草だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることとなります。①②両方の除草ができない場合は、**水稻の出穂期10日前まで**に除草を済ませましょう。

[3] 薬剤防除

○穂そろい期に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は、乳熟初期（出穂期7～10日後）までに適用のある薬剤で防除を行いましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日間で1～2回の追加防除を行いましょう。

◎粒剤は、出穂期～出穂期の7日後までに散布しましょう。

◎液剤・粉剤は、乳熟初期（出穂期7～10日後）の散布が効果的です。

●本資料に関する問い合わせ先：栃木県農業環境指導センター●

TEL 028-626-3086 FAX 028-626-3012